

平成26年度 租税教育に関する研究発表要項

岩沼市立岩沼西中学校

教諭 阿部 幸子

1 研究主題

租税への関心を高め意義や役割を理解させる指導法の工夫
～租税教室や身近な資料の活用を通して～

2 主題設定の理由

中学校学習指導要領社会科の公民分野では「租税」の扱いについて、財源の確保と配分という観点から財政の役割について考えさせ、その際、租税の意義と役割について考えさせると共に、国民の納税の意義について理解できるようにすることと述べられている。

しかし、租税とはどのようなものか、なぜ税を納めなければならないのか、税が何に使われているのか、正確に理解している生徒は少ないであろう。しかも、税金は「とられるもの」というイメージが先行して、自分たちの生活に役立つものであるという意識が低い。

そこで、公民学習の単元において生徒の日常生活に関わる問題を取り上げ、税金の意義や役割を考えさせると共に将来の納税者として義務を果たすという意識を高めさせたいと考えた。さらに、身近な題材や租税教室の学習を通して、租税は自分たちの生活を向上させるための会費のようなものであることを実感させることができれば、生徒の税に対する理解が深まると考え、本主題を設定した。

3 研究目標

生徒にとって身近な資料や租税教室の学習を通して、租税への関心を高め意義や役割を理解させるための指導法を探る。

4 研究仮説

税金は何のために納めるのか、どのようなことに使われているのかについて正しく理解し、どのように使われるべきかを生徒自らが主体的に考えることができれば租税に対する関心が高まり、理解が深まるであろう。

5 研究の方法

- (1) 小単元「地方の政治と自治」の学習において、生徒にとって身近な地域を題材に「広報いわぬま」を活用して市政の歳入・歳出について理解させる。
- (2) 仙台南税務署のご協力による租税教室を通して、租税の意義や役割について理解を深めさせる。
- (3) 小単元「国民生活と福祉」の学習において、財政のあり方について自分の考えをまとめて発表させる。
- (4) 公民分野のまとめとしてレポートを作成させ、発展学習につなげる。

6 研究の計画

- 8月22日 平成25年度租税教室座談会（於：名取市役所）
- 10月 「地方の政治と自治」学習開始
1. わたしたちと地方自治
 2. 地方分権と住民参加
 3. 市町村合併と地域づくり
 4. まちづくりを調べる
 5. わたしたちと日本の政治
- 10月31日 租税教室（税理士 鈴木茂之さん）
- 11月 「国民生活と福祉から～政府の役割」学習
- 1月 公民分野レポート作成
- 11月13日 平成25年度租税教育に関する研究発表会（於：山元町中央公民館）
- 8月21日 平成26年度租税教室座談会（於：亘理中央公民館）
- 11月12日 平成26年度租税教育に関する研究発表会

7 研究の概要

（1） 「地方の政治と自治」における租税教育

①授業実践1 「わたしたちと地方自治」

- ・ 地方公共団体はどのような仕事をしているか。
（岩沼市ホームページを参考資料にして）小中学校の設置，ごみ収集・処理
図書館・公民館の運営，上下水道の整備，消防，福祉，産業
- ・ なぜ国ではなく，地方公共団体の仕事になっているのか。
地方の実情に沿った活動ができる。地域住民の要望が届きやすい。地域活性化のため
- ・ 上記の仕事をするための費用は「税金」である

②授業実践2 「地方分権と住民参加」

- ・ 地方公共団体の財源はどのようになっているのか。
自主財源は地方税・繰越金・入場料・手数料収入
依存財源は地方交付税交付金・国庫支出金・地方債
- ・ 「広報いわぬま」平成23年度決算報告を参考資料にして調べよう。
「歳入」柱となる市税は震災による減免・減収で12億8千万円減，国庫支出金は99億9千万円増

「歳出」衛生費は災害廃棄物処理事業により77億3千万円増
普通建設事業は図書館建設や市役所耐震化工事や福祉総合プラザ建設の終了により15億7千万円減

(2) 租税教室 (3 学年全クラス) 講師 東北税理士会 鈴木茂之さん

	学 習 内 容
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・「税理士って何ですか」 税金のプロフェッショナルとして講義 自己紹介。 ・「日本の財政の現状はどうなっているのでしょうか」 税金の基本的なお話と日本の現状について考えてみましょう。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・「公立中学校の教育費はいくらかかるか」 1 か月の授業料が約 8 0 0 0 0 円で 1 年間だと約 9 7 9 0 0 0 円, 卒業するまでは…? ・「もしも税金がなかったらわたしたちの生活は」 税金の必要性について理解する。 ・「2 5 年度一般会計予算から国の歳出」 「税金はどのように使われるのか」 ・「日本の税金の種類は直接税と間接税がある」 どんなものに課税されるか。生活のあらゆる場面に関係する。 「税金は暮らしを守る会費のようなもの」
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・「今日の学習を通じて、これからの日本の財政や税金を考えてみましょう」 「全ての政策を実行するにはお金が足りません。あなたはどうしたらよいと思いますか」 <p>課題について意見をまとめよう。事後の感想含プリント整理</p>

<課題>

すべての政策を実行するにはお金が足りません。あなたはどうしたら良いと思いますか。また、その理由は？

- ・増税する（具体的には？） → 85%
- ・もっと公債を発行する。 → 3%
- ・一部の政策をあきらめる、その他（具体的には） → 12%

<増税する>

- ・日本は、震災の経験もあり、あきらめられる政策がない・公債を増やせない・そうになると最終的には増税になる。
- ・公債を発行しても最終的には増税するから。政策をあきらめたら党のマニフェストがウソになる・よって増税。
- ・増税して地域を活性化させたうえで、政策を実行する。
- ・未来の子供・大人達が国の借金を負わないようにすることが大切。8%は仕方ない。
- ・将来、日本が借金を返せなくなり国が成り立たなくなってしまう。
- ・スウェーデンは20%ぐらいあって、国としてなりたっているのだから日本も大丈夫。
- ・「ぜいたく税」「たばこ税」「ゴルフ場使用税」「酒税」に増税。「燃費の悪い車に増税する」「クラブダンス 税」「路上ライブ税」「罰金」「富裕税」をあげる
- ・消費税や所得税を少しずつ上げて「医療費」を安くする。
- ・多くの借金があるのは変わらないので「消費税」のように多くの税を払ってもらうようにする。
- ・少しずつ増税していけばお金のまわりが良くなる。
- ・一人一人の負担は多くなるが国の借金を返すためには増税がよい。
- ・大変にならないところまで増税する。必要のない政策はなくす。
- ・消費税を上げる。一人が毎日1つずつの商品を買っただけでも有益。
- ・事業仕分けをしたのち増税、1つの政策に取り組む。
- ・強制的にあげていくしかない。確実に税金をえることができる。手っ取り早く集まる。1%ずつしっかりとあげていく。
- ・すべての政策にはお金が足りないからやむを得ない。
- ・「累進課税方式」を徹底させる。
- ・日本をもっと良くするには政策をあきらめられない。「税金は生きていくための会費」ということを思えば払うべきだから。
- ・もっと国で使える金を増やす。国の借金を返済する。

<公債を発行する>

- ・増税した上で公債を発行する。
- ・みんな平和な暮らし・平等な生活をしていくことを補うため。

<一部の政策をあきらめる。>

- ・なぜ全ての政策を実行しなければならないのか疑問。
- ・2つほどの政策をあきらめ増税する。
- ・いらない政策をけずって、必要なものを残す・国民の需要度で決める。
- ・一部の政策をあきらめる。そんなに必要のない政策をやめる。
- ・まず、実行しようとする政策は、本当に必要な政策か考えるべき。
- ・特別なイベントや建設を一切やめる

2. 今日の学習を通じて感じたこと、学んだことなどを自由に書きましょう。

(生徒感想)

税金には、種類が約50種類あり、所得税などが直接税、消費税などが間接税に入ることが初めてわかりました。
また、収入の半分以上が借金だということに気づきました。
これから真剣に税金について考えたいと思います。

中学校の教育費が約8万円もかかっていることを知って
おどろきました。それだけ親にお金を払ってもらっ
てことに感謝したいと思います。
その他、税の仕組みは国民が選んだ国会議員が国会で
決めることも知りました。

日本の財政が危ないと聞いてびっくりしました！
税がなくて私達の生活が苦しくなるけどその税によって今は
日本が苦しんでいるんですね…。
またまた税について分からないことがあるのでぜひ調べて
みたいと思います！

2. 今日の学習を通じて感じたこと、学んだことなどを自由に書きましょう！

難しい用語が79%、理解が変化した。

所得税の階級が気になる。

日本をになえるように、将来バリバリ働きたい。

公立中学校の教育費が月、8000円かかっていることに驚いた。また、今までは税金のことはあまり考えていなかったが、今回の話で、自分自身が考えることが重要なことが分かった。これからは税金のことを気にしながら、自分ごととして考えていきたいと思う。

今日の学習で、今まであまり知らなかった『税』について学ぶことができました。

また、日本の借金の現状も理解することができました。

今回学んだたくさんのことを、これから大人になるまでに、

もっと調べて、社会生活をおくれるように

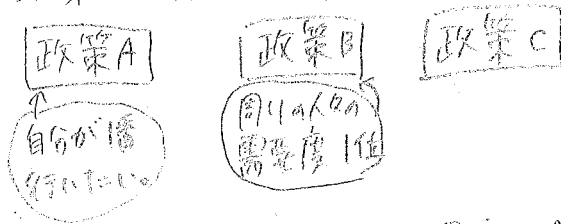
頑張りたいと思います。

1人1人が払うという意識が大切、このことばかりとしても興味を持ちました。ちゃんと大人になったら払っていきたいぞ。

いらない政策をけりこめる政策に力を入れる。

全部でなくなってもいいし。

その政策は、周りの人々の需要度で決める。



だったらBをやる。(しかない)と思う。Aはあきらめる。

おが、実行しようとする政策は 本当は今の日々に必要な政策なのか
考えるべきだと思う。そして、それから、お金が足りなくなっている場合は、増税を
すべきだと思う。でも、急に税を上げすぎると、国民の負担が、大きくなってしま
うので、長い期間を使い、徐々に増税していくべきだと思う。

増税をし、無駄に使われているお金がないかを見直す。
増税は、お金をたくさん持っている富裕層の人に
払ってもらっている富裕税を上げればいいと思います。
消費税だと貧しい人に対しては大きな負担になって
しまいます。だから、お金の余裕のある富裕層の人に
払ってもらえばいいと思いました。所得税を上げるのも
いいかと思いました。
また、無駄にしているお金は
少なからずあると思うので、見直せばいいと思いました。

(3) 実践授業3「政府の経済活動と租税」の学習

- 学習目標
- ・租税について興味・関心を持ち、租税の仕組みと働きについて理解する。
 - ・公債の発行の実態と課題について話し合い、財政のありかたについて考え、自分の考えを表現する。

	学 習 活 動	教師の支援・留意点	評価の観点
導 入	・ 本時の学習内を知る	・ 歳出の各項目を、イラストを見て具体的にイメージさせる。	・ イラストを見て興味・関心を高めているか。
租税の仕組みと働きについて考えよう			
展 開	1・グラフの中で項目の割合が高いかそれはなぜだろうか 2・日本にはどのような税金があるか。 ・ 租税収入は何に使われているか。 3・租税の公正について考える 4・現在の日本ではどのような財政を行ったらいいか。	・ 歳入では公債費、歳出では社会保障費と国債費の割合が高いことに気付かせる。 ・ 生徒自身や身近な人が負担している租税について具体的に考えさせる。 ・ なぜたくさんの税金が必要か考えさせる。 ・ 国民の税負担が所得によって異なる理由を考えさせる。 ・ 消費税率や社会保障費の増減など具体的に考えさせる。 ・ 公債の発行をおさえるためにどうしたらよいか考えさせる。	・ グラフが正しく読めているか。 ・ 身近な問題として捉えているか。 ・ 租税収入の必要性を理解できているか。 ・ 租税の公正について気付いているか。 ・ いろいろな意見がでてでいるか。 ・ 自分の意見をまとめて発表できているか。
ま と め	・ 本時のまとめ	プリントの整理	落ち着いて記入しているか。

8 まとめと今後の課題

(1) まとめ

今回、小单元「地方の政治と自治」や「国民生活と福祉」を学習する際に、身近な資料である「広報いわぬま」を活用したことや、租税教室を組み入れたことは租税とは何かを理解させるのに大変効果的であった。

地方公共団体の仕事や財政の学習では、岩沼市の歳出・歳入のグラフを読み取ることによって、生徒は主要な財源は税収入によって成り立っていることを知ることができた。また、歳出の内訳や増減を読み取ることで、税金の使い道や市の現状が分かり自分たちの地域の発展のために税金が使われているということを認識することができたのではないかと思う。

更に、租税教室の学習では、生徒は正しい租税の知識を得て、身近な問題と関連づけて自分の考えをまとめることができた。事後の感想では、税金の種類の多さに驚いたが一つ一つが大切であることや、税金とは豊かでより良い生活を送るためにみんなで出し合う会費のようなものであることに気付いたこと、国の借金があまりにも多いので財政について真剣に考えたいなどの意見が述べられていた。生徒の租税についての関心を高め、理解を深めるのにかなり効果があったと考えられる。この学習を踏まえて、公民学習の「政府の経済活動と租税」を学習したところ、生徒は財政問題を自分の身近な問題としてとらえ、主体的に考え様々な意見を発表することができた。

(2) 今後の課題

租税の学習は生徒にとって難解な用語が多く、まして財政問題について論じるには知識や体験が乏しい。そのため自分たちの身近な問題としてとらえるための地域の資料や素材をできるだけ取り入れ、生徒の興味・関心を高める授業の展開を心がけていかなければならない。

また、租税教育は授業の一单元で終わらせるのではなく、今後も機会を見つけて継続的に行うことが重要である。中学校社会科では、公民学習だけでなく地理や歴史の学習においても租税に関わる内容を意識させて理解させていく必要がある。租税教育を通して、将来、生徒が納税者として国民の義務を果たしていくために、必要な意識と実践力を育てていかなければならないと考える。